

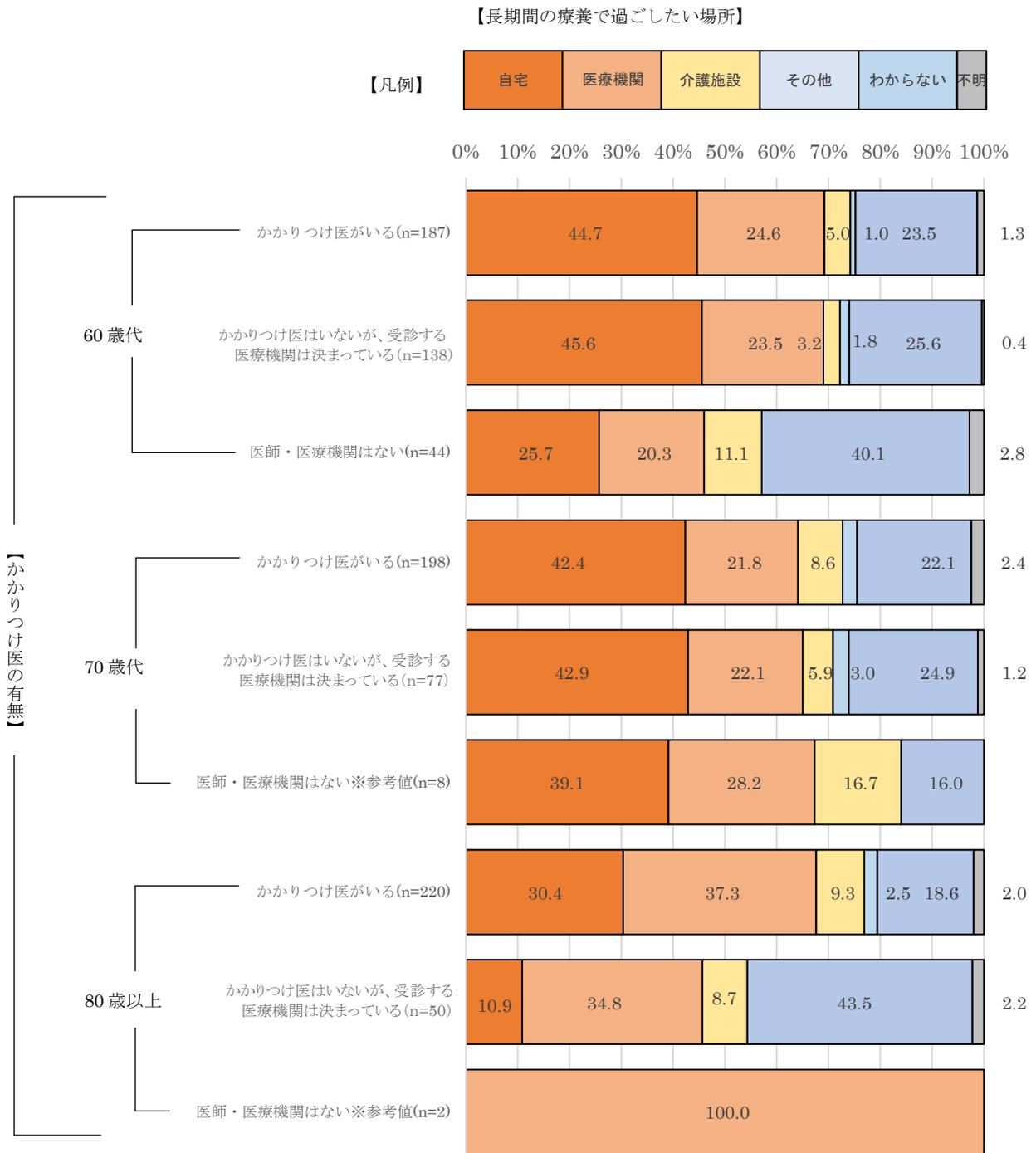
## 第 2 章 調査結果の分析(3.相関分析)

(1) かかりつけ医の有無×長期間の療養で過ごしたい場所

① 「かかりつけ医の有無」と「長期間の療養で過ごしたい場所」の関係性 (60歳代以上)

60歳代、70歳代において、「かかりつけ医がいる」、「かかりつけ医はいないが、受診する医療機関は決まっている」と回答した人の4割以上が、長期間の療養で過ごしたい場所を「自宅」と回答している。

かかりつけ医又はかかりつけの医療機関の存在が、自宅での長期療養の安心感に繋がっている可能性がうかがえる。



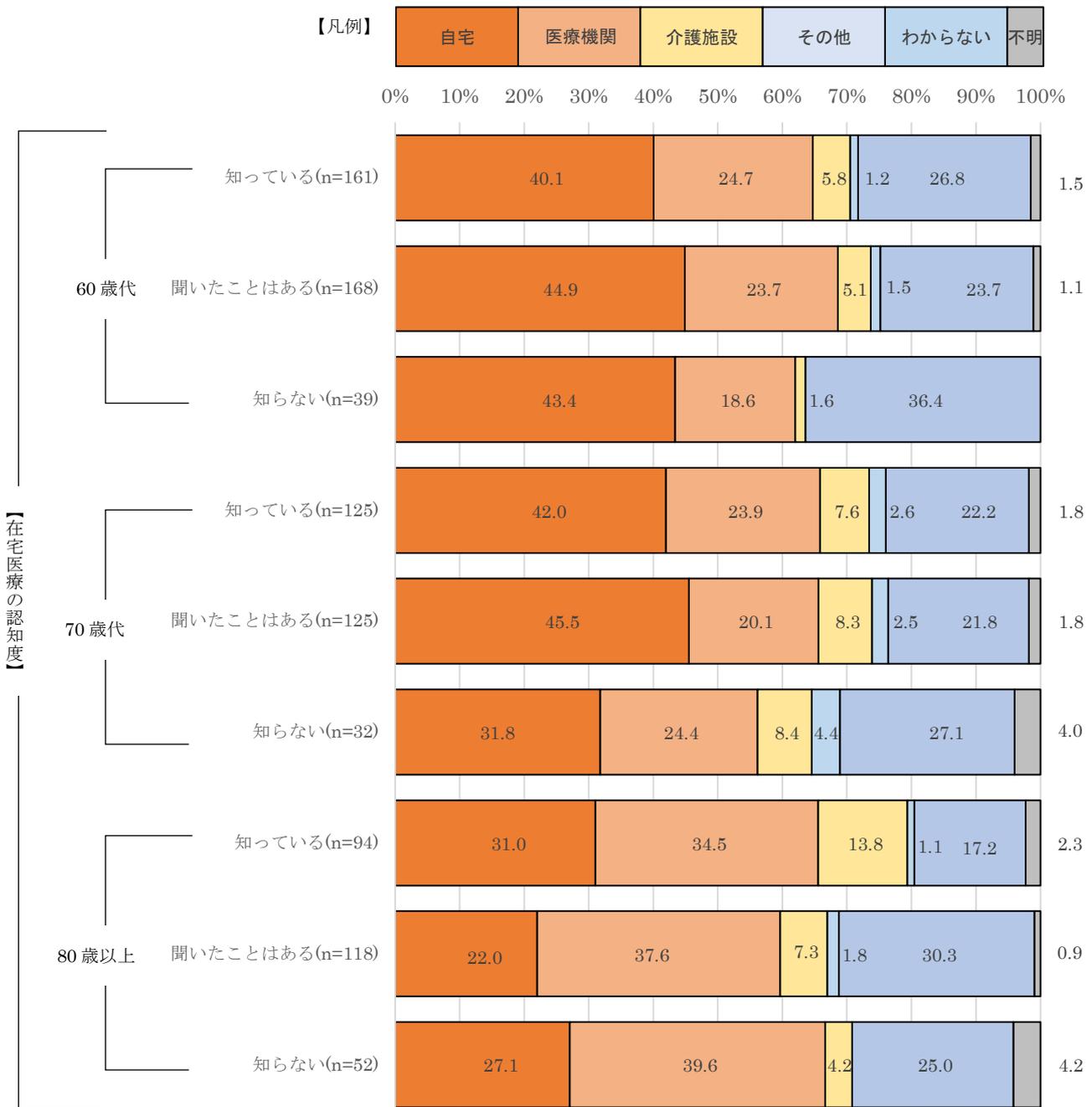
注) ※サンプル数 20 未満は参考値とした。

(2) 在宅医療の認知度×長期間の療養で過ごしたい場所

② 「在宅医療の認知度」と「長期間の療養で過ごしたい場所」の関係性 (60歳代以上)

60歳代及び80歳以上においては、大きな特徴は見られなかったものの、70歳代において、長期間の療養で過ごしたい場所を「自宅」と回答した割合は、在宅医療を「知らない」に比べ「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人が10ポイント以上上回る結果となった。

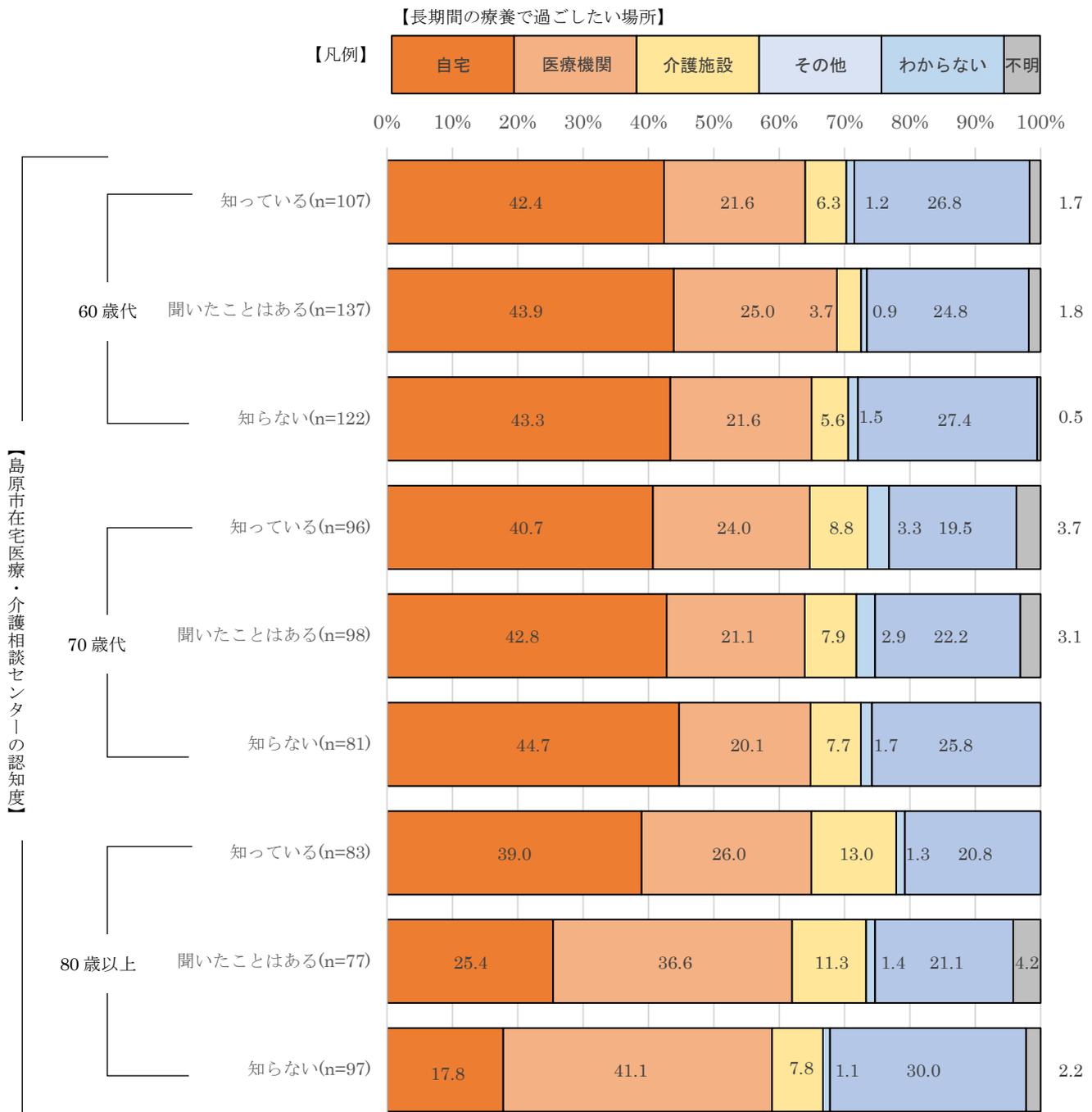
【長期間の療養で過ごしたい場所】



(3) 島原市在宅医療・介護相談センターの認知度×長期間の療養で過ごしたい場所

③ 「島原市在宅医療・介護相談センターの認知度」と「長期間の療養で過ごしたい場所」の関係性 (60歳代以上)

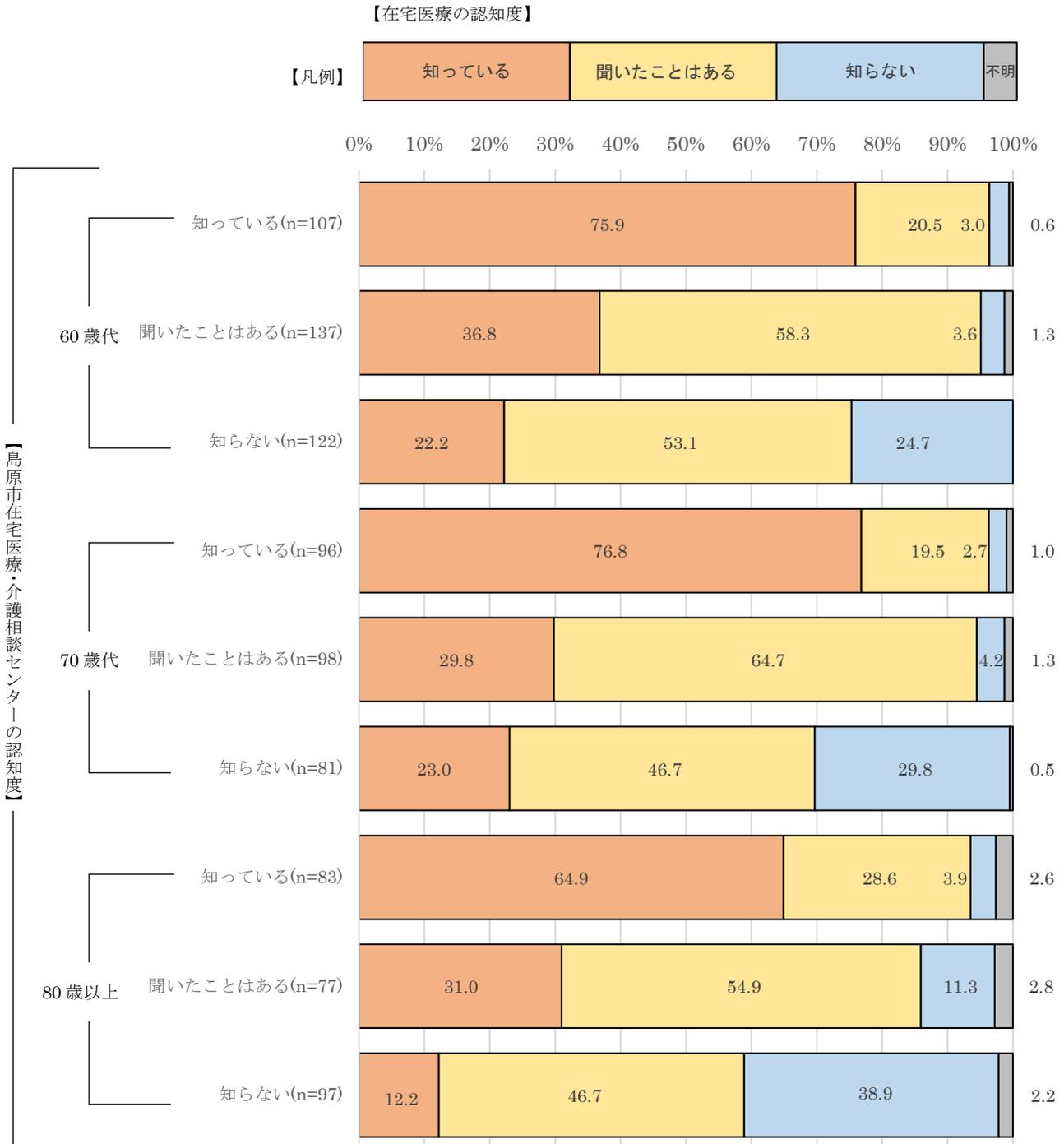
60歳代及び70歳代においては、大きな特徴は見られなかったものの、80歳以上において、長期間の療養で過ごしたい場所を「自宅」と回答した割合は、在宅医療・介護相談センターを「知らない」と回答した割合に比べ「知っている」と回答した人が20ポイント以上高い結果となった。



(4) 島原市在宅医療・介護相談センターの認知度×在宅医療の認知度

④ 「島原市在宅医療・介護相談センターの認知度」と「在宅医療の認知度」の関係性 (60歳代以上)

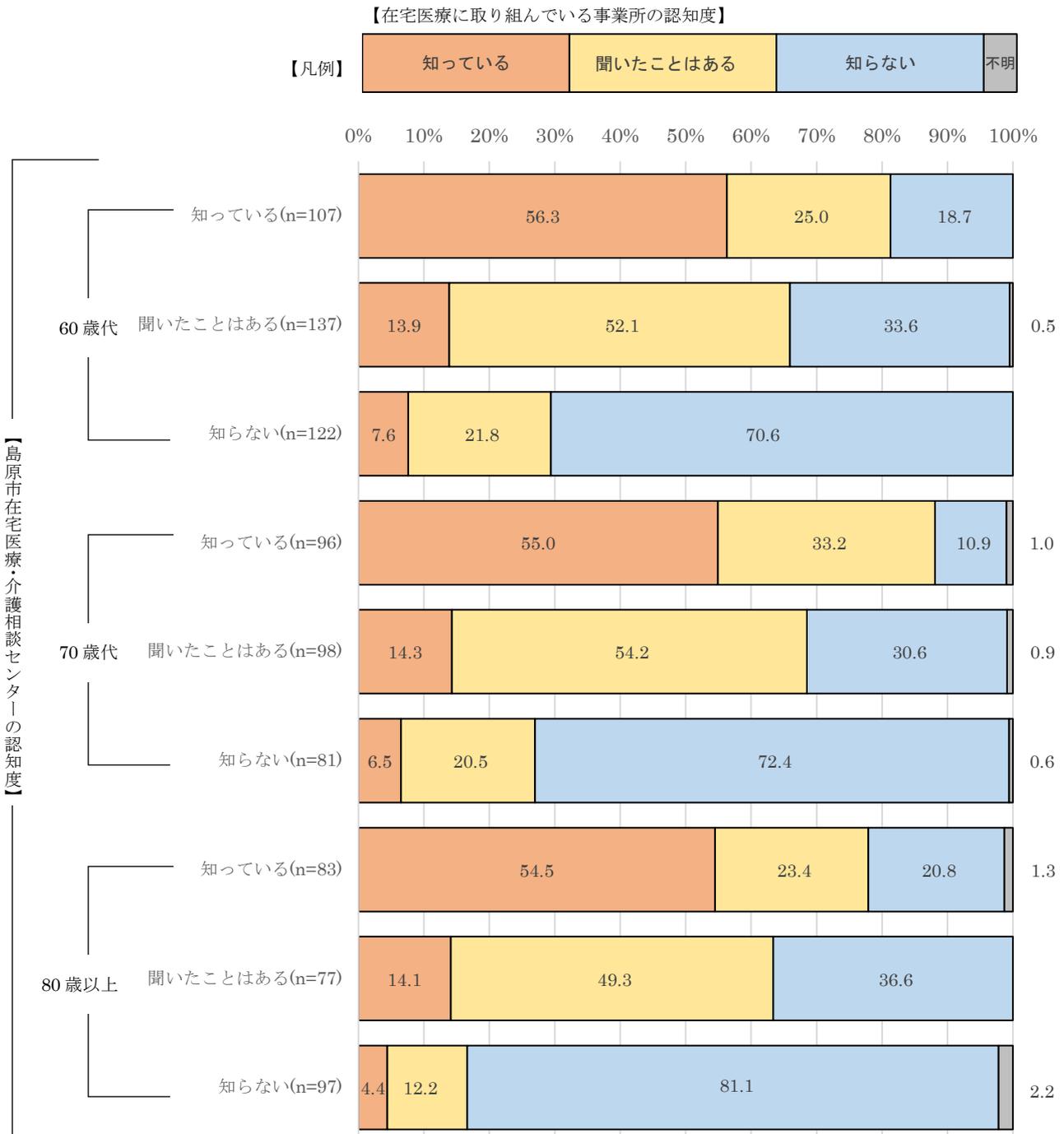
全ての年代で、在宅医療・介護相談センターを「知っている」と回答した割合は「聞いたことがある」又は「知らない」に比べ、在宅医療の認知度が高い傾向が見られた。在宅医療・介護相談センターの認知度と在宅医療の認知度の相関関係がうかがえる結果となった。



(5) 島原市在宅医療・介護相談センターの認知度×在宅医療に取り組んでいる事業所の認知度

⑤ 「島原市在宅医療・介護相談センターの認知度」と「在宅医療に取り組んでいる事業所の認知度」の関係性 (60歳代以上)

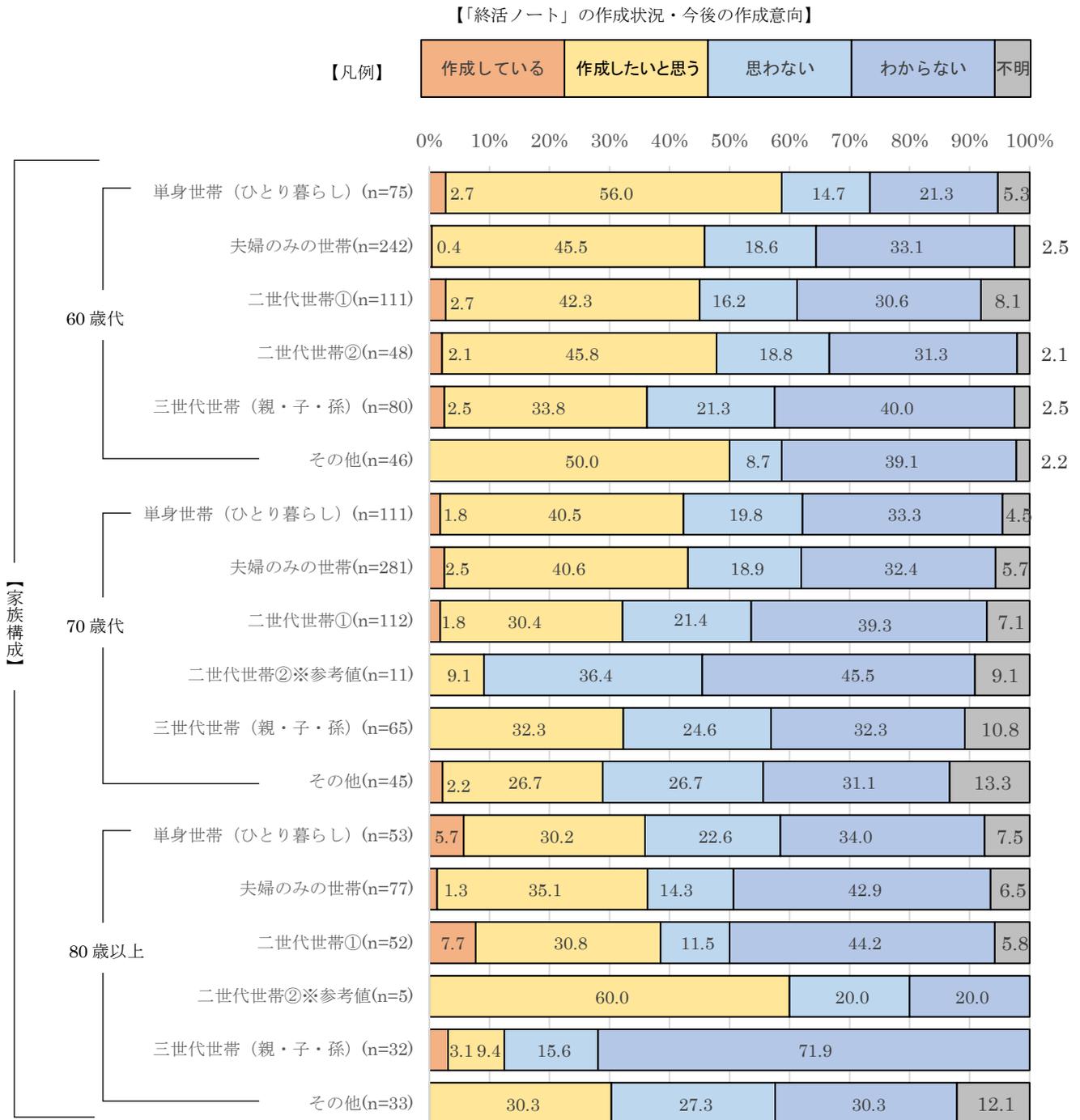
全ての年代で、在宅医療・介護相談センターを「知っている」と回答した割合は「聞いたことがある」又は「知らない」に比べ、在宅医療に取り組んでいる事業所の認知度が高い傾向が見られた。在宅医療・介護相談センターの認知度と在宅医療に取り組んでいる事業所の認知度の相関関係がうかがえる結果となった。



(6) 家族構成×終活ノートの作成

⑥ 「家族構成」と「終活ノート作成の希望」との関係性 (60歳代以上)

70歳代、80歳以上では顕著な傾向の違いは見られないが、60歳代では、終活ノートを「作成している」又は「作成したいと思う」と回答した割合は「単身世帯(一人暮らし)」が最も高い。単身世帯である状況と終活ノートに対する意識の相関関係がうかがえる。



※二世代会世帯①…本人または本人夫婦とその子供 二世代会世帯②…本人または本人夫婦とその親  
 ※サンプル数20未満は参考値とした。

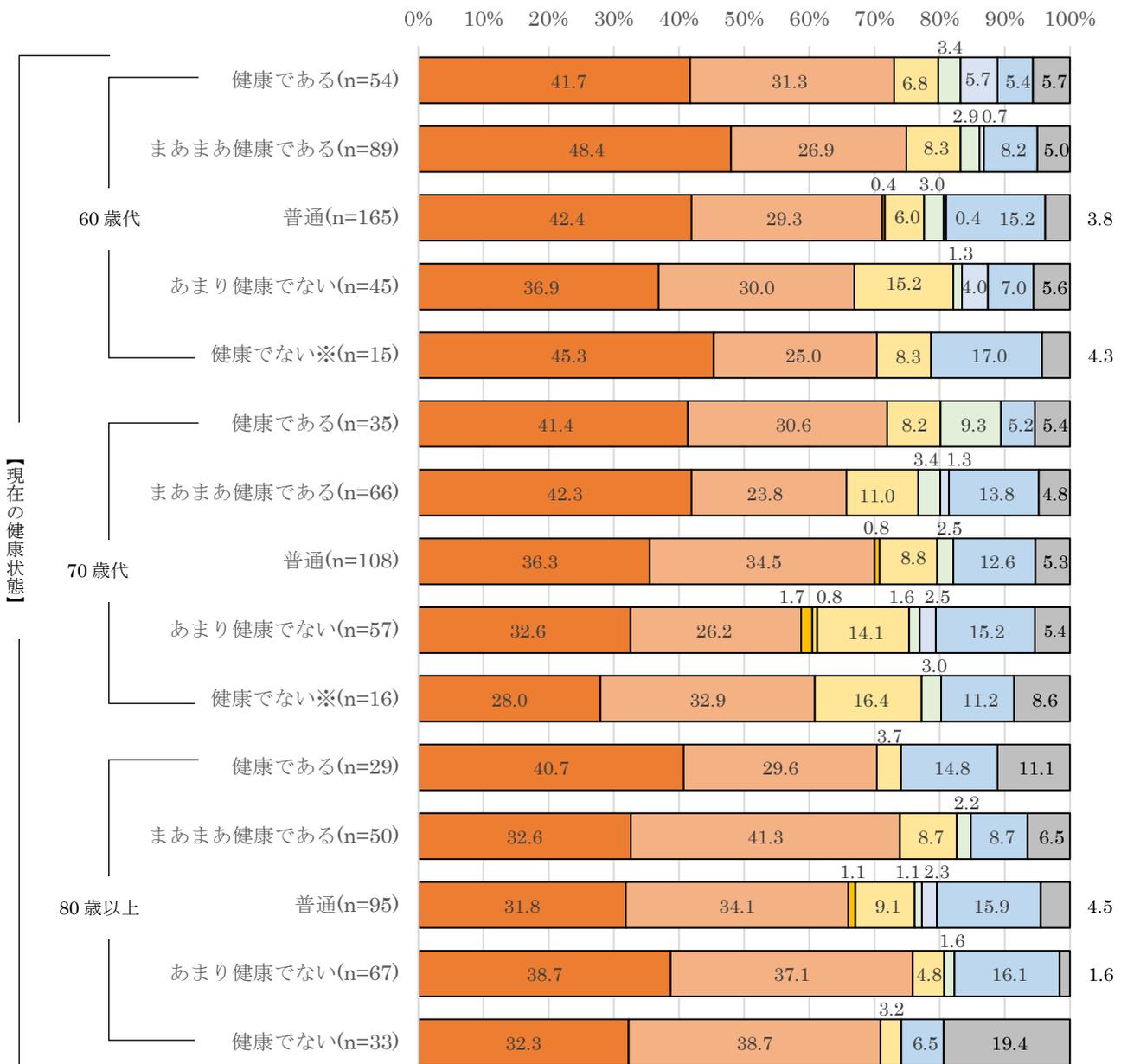
(7) 現在の健康状態×人生の最期を迎えたい場所

⑦「現在の健康状態」と「人生の最期を迎えたい場所」の関係性（60歳代以上）

60歳代及び80歳以上においては、大きな特徴は見られなかったものの、70歳代において、人生の最期を迎えたい場所を「自宅」と回答した割合は、現在の健康状態を「あまり健康でない」に比べ「健康である」又は「まあまあ健康である」と回答した人が8.8ポイント以上上回る結果となった。

【人生の最期を迎えたい場所】

【凡例】



※サンプル数 20 未満は参考値とした。